

日本におけるテレワークの現状とその帰趨

(今後の通勤行動への影響を含めて)

Current Status of Telework in Japan and Its Consequences

(Including the Impact on Future Commuting Behavior)

平田 一彦

Kazuhiko Hirata

要旨

20世紀終盤、急速に発達した ICT 技術を用いて、通常の勤務箇所とは異なる箇所で働く、いわゆるテレワークが論じられ、21世紀に入ると、少子高齢化社会における生産性の維持・向上や、働き方改革を目的とした国家政策として、数値目標も掲げられるようになった。さらに昨年来の新型コロナウイルス感染拡大のなかで、人と人との接触を極力避けつつ業務を継続するため、テレワークが強力的に推奨される状況にある。本稿では経過を振り返りながら、テレワークの現状とその帰趨、および通勤行動や都市構造に与える影響を考察することとした。

キーワード： テレワーク 在宅勤務 新型コロナウイルス 通勤行動 東京一極集中